

阿部家文書目録解題

阿部家文書は、伯母ヶ沢（おばがさわ）村（現上越市吉川区伯母ヶ沢）の庄屋役を勤めた阿部家に伝来したものである。昭和10年代に、阿部家が離村することとなり、縁戚である荒戸河沢（あらとこうぞう・現上越市吉川区河沢）の江村家で、江村家自体の所蔵文書とともにこれまで管理されてきた。

平成19年7月16日に当地を襲った「新潟県中越沖地震」で、江村家の土蔵が壊滅的な被害をうけ、そこに置かれた史料群は江村家の居宅に緊急避難していたが、管理に困難をきたしていた。

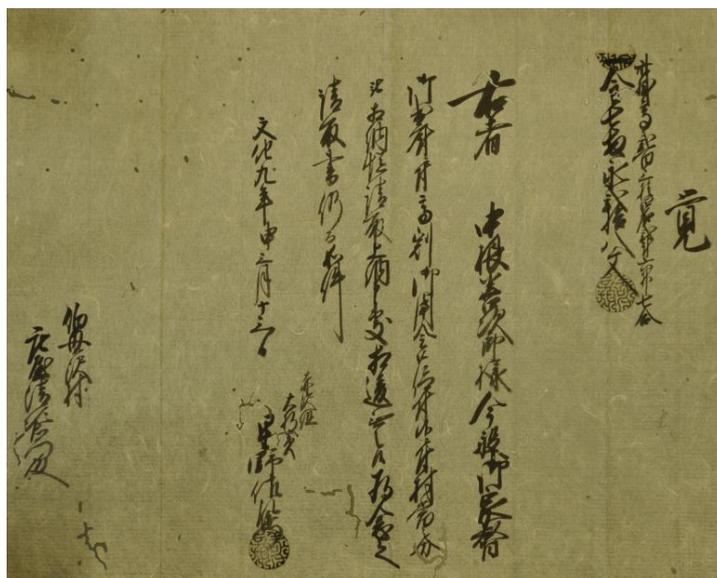
江村家は平成23年7月12日、この史料群を上越市公文書センターへ寄贈した。その後、市民からなる古文書整理ボランティア活動により整理が進み、この「阿部家文書目録」が作成された。市民による資料整理ボランティア活動の成果の一端である。

伯母ヶ沢村は、文化8年（1811）の「伯母ヶ沢村明細帳」（『吉川町史資料集第一集』）によると、村高は234石2斗6升5合、家数38戸、人数210人（内男107人・女103人）である。

江戸時代、伯母ヶ沢村の領有関係は、天和元年（1681）の高田藩主松平光長改易までは高田藩領、その後61年間は幕府領で、幕府諸代官の支配を受けた（享保20年から7年間の長岡藩牧野家預かり時代を含む）。寛保2年（1742）、高田藩へ榊原家が入封すると、伯母ヶ沢村は榊原家の原田・中根・村上の三家老が直接幕府から与えられた知行地（これを公知という）各1000石、合計3000石のうちへ入れられて、幕末に至る。この公知3000石は、近隣の田中村・入河沢村・小苗代村・川崎村・小沢村・赤沢村・泉村・後生寺村・山直海村（以上現上越市吉川区）松留村（現上越市柿崎区）・五十嵐新田村・森下新田村（現上越市頸城区）の14か村で、「御三家領」・「三家老領」などと呼ばれ、榊原家本領とは別支配をうけた。伯母ヶ沢村は、三家老のうちの中根家の知行地に属した。

高田藩榊原家の拝領高は15万石、初めは越後国頸城郡で312か村6万7千石余、陸奥国の田村・岩瀬・白河の3郡で124か村8万4千石余りだったが、文化6年（1809）に、奥州領のうち5万石余りが頸城郡内へ村替えされ、高田藩領は越後国頸城郡で12万石、陸奥国で3万石となった。頸城郡の高田藩領は、関川の西に12組、関川の東に12組の組村を作り、各組に大肝煎をおいてそれぞれ10数か村を統括させていた。伯母ヶ沢村などの「御三家領」14か村は関川東の12組の一つで、初めは田中村の八木氏が大肝煎を勤め、

「田中組」といわれていた。明和年間（1764～1771）に、大肝煎は赤沢村の星野氏に代わって「赤沢組」と称されたが、天保期末には、また、八木氏が大肝煎となり、再び「田中組」と称されるようになった。



「覚」赤沢組大肝煎星野孫作 → 伯母ヶ沢村庄屋清次右衛門
天保9年（1838）3月13日
中根家出府につき御用金の受領証